

令和2年度
有田町教育委員会点検・評価報告書



令和3年5月
有田町教育委員会

令和2年度 有田町教育委員会の事務管理及び執行状況に関する点検・評価の方針について

1 趣旨

- (1) 有田町教育委員会は、有田町の教育基本方針に基づく具体的施策や重点事業等の実施状況について点検及び評価を行い、課題や今後の改善方策を明らかにするとともに効率的かつ効果的な教育行政の推進を図る。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、町民に対して説明し、信頼される教育行政の推進に努める。

2 実施方法

- (1) 教育基本法に基づく、具体的な施策や重点事業等を対象として点検及び評価を実施する。
- (2) 点検及び評価については、施策及び事業の総括を行うとともに、課題や改善策等を明確にする。
- (3) 点検及び評価については、毎年1回実施する。
- (4) 点検及び評価については、学識経験者の意見を聴取したうえで教育委員会がまとめる。
- (5) 点検及び評価に関する報告書を作成し、町議会に提出するとともに町民に公表する。

点検・評価の構成

点検・評価項目

1 教育委員会の活動状況の点検・評価

今年度の活動について自己点検・自己評価を行い、今後の課題と対応策をまとめる。

2 教育委員会事務局の活動状況の点検・評価

具体的施策や事業等の今年度の取り組み内容の点検及び課題の整理を行い、自己点検・自己評価を行う。

有田町教育大綱

(2018年度 ~ 2021年度)

＜基本理念＞

「世界に誇れるまち 有田」をつくり、地域を支え、豊かな伝統・文化を継承していくのは「人」である。夢や志を持って、がんばっていける環境をつくり、社会に役立つ人間づくりに取り組む。

家庭

学校



地域

町・教育委員会

○「つなぐ」の意図

1 未来へつなぐ

子ども達の学びの連続性を重視し、「幼稚園・保育園と小学校」「小学校と小学校」「小学校と中学校」「中学校と高校・大学」が連携を図り、今の学びが将来につながっていくように、それぞれの立場でまた連携・協力のもと支援を充実する。

2 互いが手をつなぎ好循環へつなぐ

学校、家庭、地域、町・教育委員会が時には、2者で3者で4者で互いに結びつき、同じ方向性を4者が向くことにより一体感が生まれまた好循環が生まれ、それぞれが元気になり活性化につながっていく。

3 有田の歴史と文化をつなぐ

歴史と伝統ある郷土を愛し、誰もが学びあい、知の循環型社会の形成を図る

教育委員会の活動状況点検・評価

評価結果（5：大変よくできている 4：よくできている 3：できている 2：やや改善が必要 1：改善が必要）

○教育委員会の会議の現状 ※評価は4名の教育委員の平均

項目	評価	課題・対応策等	外部評価者の意見
十分な議論を行える回数や時間を確保しているか。	3.8	回数・時間は確保できている。コロナ対応等臨時開催もあり、十分運営ができている	・コロナ禍で制限もある中での運営は大変だと思う。
適宜議論できるように会議を開催しているか。	3.8	テーマを決めて話し合う時間を確保することも必要である。	・最優先すべき問題が山積する中、時間確保は難しいと思う。
委員が意思決定できるように十分な情報を事務局が提供しているか。	4.0	事前に資料を配布することは良い。委員からも積極的に必要な情報提供を求める。学校の課題の分析等の情報を期待する。	・学校・保護者・委員会の連携をしっかりとってほしい。
委員が問題点を指摘し、積極的に発言しているか。	3.5	すべての委員が自分の意見をしっかりと出すよう心がけている。	・委員のそれぞれの職業等から見た意見や感想を気軽に言える雰囲気は大事である。
委員が有田町の教育方針についての確に具現化しようと努めているか。	3.5	コロナ禍の中で制約が多く、活動が不十分であった。具現化に向けて的確に議論できていない可能性がある。	・教育方針についての十分な議論が必要である。

○教育委員会の会議以外の現状

項目	評価	課題・対応策等	外部評価者の意見
委員が幼児・児童・生徒及び教職員と接する機会を持っているか。	3.0	機会を積極的につくっていききたい。校長との情報交換会を持ちたい。	・保護者を含め交流の場を増やしてほしい。 ・校長との意見交流の場は複数回設定してほしい。
教育委員会活動について周知広報しているか、また情報収集に努めているか。	3.3	他の市町や保護者等から情報を得るよう努力していききたい。各種委員会で教育委員の立場で意見を述べている。	・コロナ禍で大変ではあるが、ぜひ頑張してほしい。 ・教育委員からの激励は大きな刺激になり、充実につながると思う。
教育課題等の情報や資料提供をしたり、近隣の教育委員会や関係機関との連携を図ったりしているか。	2.5	他の市町の教育委員との連携を図りたい。学校だよりやPTA広報誌を6校すべてから提供してほしい。	・PTAも協力していききたい。

教育委員会事務局の活動状況点検・評価

1 学校教育課

事業名：学力向上対策の推進				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着のための方策を学校とともに探る。 授業力を高めるためのICT機器の導入、有効活用の在り方を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ対策により、教職員の研修等ができていない。 クロームブック1,100台を導入し一人1台体制と同時に通信ネットワークの環境整備を整えた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での教職員の指導体制強化策と基礎学力対策の検討が必要である。 ICT機器等の環境整備は完了し、電子教材等ICTを活用した授業のあり方が急務となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、子どもたちの更なる学力向上を期待する。 教職員は人を導くことの喜びと誇りを持ちながら、いかに導いていくか、その技量の充実に間断なく努めていただきたい。特に、ICT機器を使いこなすための研修がいよいよ求められていると思う。環境づくりをよろしくお願ひしたい。

事業名：不登校対策				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 不登校を起こさせない学級、学校の取り組みの支援を行う。 「困り感」を持つ児童生徒への適切な対応ができる支援を行う。 適応指導教室指導員とスクールソーシャルワーカーへの支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校、不登校気味の児童生徒に対しては、適応指導教室や中学校の不登校傾向生徒等支援の指導者、スクールソーシャルワーカー等による対応と情報の共有はできている。 不登校となる児童生徒の数は減っていないが、回復傾向の児童生徒も出てきた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 不登校、不登校気味となる子どもの心理や子どもを取り巻く環境に応じた対策が必要である。 根気強く、子どもに寄り添った対応を続けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは、家庭から子どもたちをしっかりと見ていかなければならない。 スクールソーシャルワーカー等の方々との連携が大変良好な状況だと思う。 不登校はすべてのこどもに起こりうることととらえることが大切である。ポイントとなるのはその子との接触が多い担任の指導力による面が大きいと思う。先生方の人間性を含めた研修に期待したい。

事業名：コミュニティスクールの推進				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・町内4小学校の推進を図る。中学校導入への準備を行い、スムーズな移行を図る。 ・コミュニティスクール実働支援組織の充実と展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの2校に加え、有田中部小学校、曲川小学校の指定が完了した。 ・コロナ禍の中ではあるが、活動はよくできている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後2年後を目途に中学校への導入を図っていく。 ・組織体制と活動の充実のための支援について、引き続きバックアップは必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域住民、保護者が一体となり子どもたちを育む形にしていかなければならない。 ・「生涯学習、地域の活性化のためにぜひ推進してほしい。 ・家庭や地域社会との連携、学校相互の交流など課題は多いかも知れないがバックアップをしてほしい。

事業名：新たな教育環境への展望				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に対応する将来の学校教育のあり方の構想を練っていく。 ・GIGA スクール構想の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の長寿命化計画策定に伴い、将来の小中学校のあり方について考える機会となった。 ・端末の一人1台体制と通信ネットワークの整備は完了した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に対応した学校のあり方について検討を進めていく。 ・GIGA スクール構想推進のため、ICT支援員の強化を継続し、教職員のスキル向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親世代も子供たちが直面していくIT社会への覚悟が必要である。 ・少子化はどうしても親の過保護、過干渉となりやすい。子どもにとっては学習の減少で人と接触しての社会性が不十分になりやすい。耐性を身に着ける指導も含めてもらいたい。 ・GIGAスクール構想の推進については教職員のスキルの向上・充実が肝要だと思う。

事業名：有田を誇りに思う教育の推進				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「調べよう、伝えよう、私のルーツ」の充実を図る。 ・「有田キッズ検定」の取り組みの推進を図る。 ・STEAM教育やSDGsへの取り組みを探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私のルーツ事業は、今回で3回目、キッズ検定も平成28年以降継続している。 ・STEAM教育の有田型について模索段階にある。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を想う事業は継続が必要である。本事業で対象となる5・6年生に対し、息の長い取り組みが必要。 ・STEAM教育やSDGsを常に意識した取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分のふるさとを真剣に考えるきっかけとしたい。 ・実践的な知識を身につけさせることで郷土有田への関心・愛着・役割などを意識してくれるものと期待する。

2 生涯学習課

事業名：赤坂球場整備				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<p>・実施計画書等に基づき、解体工事を完了させるとともに建設工事に着手し、令和3年12月完了を目指す。</p>	<p>・工事監理者及び建設課技師、請負者と協議調整のうえ計画どおりに解体工事を完了させることができた。</p> <p>建築・外構工事、電気・機械設備工事に着手した。</p>	4	<p>工事関係者と協議調整等を行いながら建築・外構工事、電気・機械設備工事完了まで円滑に進めるようにする。</p> <p>また、防球ネット等の周辺整備を図る。</p>	<p>・有田町民の野球への思いは強いので期待している。</p> <p>・完了を楽しみにしている。活用については野球、ソフトボールに一般の町民が気軽に利用できるようにしてほしい。また、外野芝生部分でグランドゴルフなど興じることができるような町民が幅広く使用できるような配慮をお願いしたい。</p>

事業名：焱の博記念堂老朽設備・備品等の整備				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<p>・施設内トイレの洋式化を行う。</p> <p>・文化ホール舞台調光盤設備、建物内監視カメラ・モニター、インカム装置、テーブルの更新・設置を行う。</p>	<p>・請負者と連絡調整を行いトイレの洋式化、文化ホール舞台調光盤設備、インカム装置、テーブルの更新は完了した。</p> <p>・監視カメラ設置は機器納品遅延等のため事業繰越を行い、5月末に完了予定。</p>	3	<p>長寿命化のための設備・備品の更新のほか、トイレの洋式化は利用者ニーズに応じた環境整備に繋がられた。</p> <p>繰越事業の監視カメラの設置は5月末までに完了させ、利用者の安心安全のための環境を整える。</p>	<p>・使用頻度も高く、有田のシンボリックな存在なので継続的整備が必要である。</p> <p>・町の誇る記念堂である。設備等細やかな整備を喜んでいる。町民がもっと活用すればよいのにと思っている。文化協会の尽力にも期待する。</p>

事業名：国民スポーツ大会事業				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度国民スポーツ大会開催に向け、実行委員会を設立し、運営体制の準備を整える。 	<p>開催が1年延期となり、実行委員会設立も延期とした。運営体制の準備にあたり県及び関係市町団体等との情報共有、協議等を行った。</p>	3	<p>県及び関係市町団体等との連携・協議のほか、先進地研修等による情報収集に努め、運営体制づくりの準備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 準備が大変でしょうが、りっぱな大会になることを願っている。 佐賀県民一丸となりスポーツ文化の新時代になる最初の「国スポ」になればと思っている。

3 文化財課

事業名：有田陶磁美術館展示環境のリニューアル				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より美術館の展示構成を見直し、両館を1つにしたパンフレットを作成し、旧田代家西洋館と有田陶磁美術館を連動させ、大樽地区の新たな見学ルートの創出を試みている。 展示ケースの劣化が著しいので、ケース照明のLED化及び修繕・塗装等を行う。 	<p>昨年度実施したパンフレットの作成や展示構成の見直しに引き続き、来客の反応を探ることにより新たな見学ルートの創出を試みる計画であったが、今年度は新型コロナウイルスの影響で美術館、西洋館共に入館者数が激減し、来客の反応を十分に探ることができず、結果的にルートの創出に至らなかった。しかし有田観光協会などにより、美術館のリモート展</p>	3	<p>劣化が進み危険性が高かった展示ケース内の照明をLED化したことで最大の懸念は払拭されたが、すでに築後150年近く経過しているため、軽微な雨漏りなど、建物自体の不調も出てきており、早期の修繕を心がけたい。また、今後コロナと共存した、地区全体の活性化を目指すことになり、町や観光部局と連携して対応を模索していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 有田の歴史を守り、広く世に伝えるためにもしっかりとリニューアルが必要であると思う。 なんとなく暗いイメージを払拭しようという試みに敬意を表す。質の高い展示の品々などどのようにアピールして入館者増につなげるか課題である。 見学ルートの創出の試みは素晴らしいと思う。また、有田町全体の観光ルートの中に位置づけたり郷土学習の教材にしたりして関心度が高まることを期待する。

	<p>示解説が大山小学校で行われるなど、新たな試みが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響に伴う長期休館を利用して、展示ケースの修繕を効率的に行い、展示環境が著しく改善した。 			
--	---	--	--	--

事業名：有田町歴史民俗資料館展示構成見直し及び企画展の開催				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・展示構成を見直し、焼物の図案コーナーと新規収蔵品コーナーを創設して常設展示の充実を図る。また、「展示ガイドブック」の改訂版を発行する。 ・「中樽一丁目遺跡・泉山一丁目遺跡発掘調査報告展」を開催する。そして、内容を凝縮した冊子の作成及び販売をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに「図案の改良と実業教育」コーナーと「有田皿山のくらし」コーナーを創設し、西館や美術館との差別化を顕著にして、新規収蔵品コーナーも令和元年度寄贈のものに展示替えを行った。「展示ガイドブック」の改訂版を発行した。 ・企画展は、コロナウイルス感染予防対策をし、11月14日～12月20日の期間で開催した。また、企画展の内容を詰め込んだ冊子を制作し、500円で販売。期間中の来館者数は966人。 	4	文化財課が所管する各館の役割がより明確になったことで、今後は各館に合わせた事業を取り組み、資料館東館に限定することなく、内容に相応しい場所で企画展などを実施したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料館の雰囲気明るくなったと感じたが、展示構成見直しなど大胆に地道に取り組んでいることの成果だとご苦労に思う。 ・郷土学習には欠かせない施設である。子どもたちの目線で興味を持たせる工夫なども今後重ねてほしい。 ・構成の見直しや新規コーナーの創設など幅広く取り組んでいる中、コロナの影響は深刻である。がんばってほしい。 ・自分自身も今後は積極的に見学にいくようにしたい。

事業名：伝統的建造物等保存修理事業				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・国選定有田内山伝統的建造物群保存地区内の文化財として指定された建物など（伝統的建造物・環境物件）を、保存計画に定める「修理基準」に基づき、建物の外観を有田内山の伝統的な様式・姿に復原する。本年度は5件の修理（町の事業1件、所有者等への助成金4件）を予定している。 	<p>町の事業（商工観光課）1の件は、令和2年7月豪雨の被害を受けた事業の見直しと入札不調により、翌年度へ繰越事業となった。助成金4件の事業は修理基準に基づき、修理、復原を行うことができた。</p>	4	<p>地区内には未指定であるものの伝統的建造物相当の建物がある。所有者へ制度の周知を行い、指定を進める必要がある。また、空き家は傷み、解体へつながる恐れがある。所有者と接触し活用を模索する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有田内山の伝統的建造物は有田焼の伝統・魅力を形でアピールする素晴らしい力があると思う。持ち主との折衝など大変だろうが、価値のある事業だと思う。 ・有田の町並みそのものが有田の顔なので、お客様のためにも伝統を守っていく必要がある。

事業名：全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会等の設置をして大会及び秀作展の内容を協議する。 ・佐賀大学と連携してCLCには有田町が所管する2つの加盟団体の映像制作を委託する。 ・芸術文化振興基金へ10月中旬ごろ申請をする。 	<p>今年度予定されていた岐阜美濃大会が順延となった関係で、佐賀有田大会も令和4年度に変更となり、予定していた取り組みを行うことが出来なかったが、次年度へ向けた準備を進めた。</p>	3	<p>順延となったことで、引き続き次年度においても、予定している取り組みを行う。そのための準備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備が大変だと思うが、成功を祈念する。 ・世界に誇る柿右衛門、今右衛門の優れた技術・芸術性あるいは歴史的価値を改めて知ることができるよう頑張ってもらいたい。